2019 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
Q1： 航空宇宙システム事業の営業利益見通しを 80 億円引き上げていますが、その理由を教えてください。	A1： 営業利益見通しを引き上げた理由は主に機体のボーイング 787 分担製造品を中心としたコストダウンおよび一部ジェットエンジン分担製造品の売上情報入手の早期化に伴う増収効果です。
Q2： 営業外費用に「民間航空エンジンの運行上の問題に係る負担金」を追加で 65 億円計上しています。2019 年 11 月に Rolls-Royce 社が公表した情報と当社のプログラムシェアを勘案すると少額な印象ですが、理由を教えてください。	A2： Rolls-Royce 社が 2019 年 11 月に公表した Trent1000 エンジンに係る追加費用 14 億ポンドの中には、当社としては将来の収益に対応させて計上すべきものと判断しているものが含まれています。Rolls-Royce 社から頂いた情報を当社なりに精査した結果であり、これ以上の詳細は守秘義務があるため差し控えさせていただきます。
Q3： 精密機械・ロボット事業は営業利益見通しを下方修正していますが、それでも第 4 四半期だけで 93 億円の利益が必要になります。達成は可能でしょうか。	A3： 油圧機器に関しては、需要は堅調であり下方修正後の計画から大きく外れることなく進捗すると見込んでいます。 ロボットに関しては、半導体製造装置向けウェハ搬送ロボットの受注が顕著に増加しており、第 4 四半期から大きく寄与する見込みです。また、汎用ロボットは例年通り第 4 四半期に売上・利益が集中することを想定しています。 よって、精密機械・ロボット事業全体で見ると達成可能な計画と認識しています。
Q4： 船舶海洋事業における今後の受注見通しについて教えてください。	A4： LPG 運搬船の商談が多数進行中であり、今年度中に複数隻の受注を想定しています。なお、受注を目指している LNG 運搬船に関しては複数の商談を進めていますが、受注時期は来年度になるとみています。

質問	回答
Q5： 車両事業では米国ロングアイランド鉄道向け M9 プロジェクトで再び追加費用が発生しています。今後、更なる追加費用の発生リスクはありますか。	A5： 既に 48 両を出荷していることに加え、現在は量産体制に入っており、生産工程は見直しにより整流化されています。そのため、今後は大きな追加費用が計上される可能性は低いと見ています。
Q6： モーターサイクル＆エンジン事業において生じた北米向け四輪車のリコールが業績に及ぼす影響を教えてください。	A6： モーターサイクル＆エンジン事業では営業利益の見通しを 60 億円引き下げましたが、そのうち約 40 億円がリコールの影響です。製品の補修費用および出荷停止期間による機会損失を見積もり、計画に反映させています。なお、販売再開時期については、米国当局の審査に要する時間にも左右されるため確定していないものの来年度 4 月を想定しています。
Q7： 今年度のフリーキャッシュ・フローの見通しを教えてください。	A7： 今年度もフリーキャッシュ・フローはプラスを目指していましたが、様々な特殊要因が重なり達成が難しい状況になりました。当社は Net D/E レシオの適正ラインを 70～80%に設定していますが、今年度は 90%を切る水準を目標にしています。なお、来年度のフリーキャッシュ・フローは高い確度でプラスになると想定しており、NET D/E レシオも適正水準に戻るとみています。

以上